

# 「静岡と戦争」

～静岡県民の生活を中心として～

静岡県立中央図書館 歴史文化情報センター

# 「静岡と戦争」 ～静岡県民の生活を中心として～

1931年9月18日の柳条湖事件に始まる満州事変、1932年1月から5月の第一次上海事変、1937年7月からの日中戦争、1941年12月以降の太平洋戦争を経て、1945年8月15日の敗戦に至る戦争を「十五年戦争」という。

授業の種「静岡と戦争」では、この「十五年戦争」の時代を、県民の戦争との関わりを、主に生活面から紹介していく。

特に沼津市郷土史料館が所蔵する、佐々木古櫻(ささき こおう)「戦中画便り・戦中画日記」は、当時の様子を記録した貴重な資料であるため、8枚のスライドを掲載した。

なお、今回の資料作成にあたり、貴重な資料の公開許諾をいただいた方々に、心よりお礼を申し上げます。



盧溝橋事件(日中戦争勃発)を伝える新聞記事  
 【1937(昭和12)年7月9日 静岡民友新聞夕刊】

夕刊  
 静岡民友新聞

第一〇七〇号  
 昭和十二年七月九日  
 静岡市本町二丁目

盧溝橋とは、北平の南門外にあり、日清戦争の際に日本軍が砲撃したところから、名がつけられたといわれる。この橋は、北平の要所であり、日清戦争の際に日本軍が砲撃したところから、名がつけられたといわれる。この橋は、北平の要所であり、日清戦争の際に日本軍が砲撃したところから、名がつけられたといわれる。

又も支那側不法發砲

我軍遂に兵火を交ゆ

北平西方芦溝橋頭に

駐屯軍正義の十字

日本軍獅子奮迅  
 敢然敵陣に肉薄

北京八日發同盟至急報「盧溝橋事件は遂に最悪の場面に立ちいたるに至り日支兩軍は戦闘を開始し双方對立す猛烈なる迫撃砲、歩兵砲、機關銃小銃の物凄い音は殷々として遙かに北平城内をゆるがせ午前八時半目下激戦中である八日午前八時二十分龍王廟に據る支那兵は長辛店方面より續々到着する有力なる増援隊を得て銃砲を亂射して頑強戦闘が續けられつゝ、あり勇猛果敢なる我軍は降り注ぐ銃火の下を潜り敵陣に肉迫しつゝ、あり彼我ともに相當の死傷者を出しつゝ、ある模様

北平八日發同盟至急報「盧溝橋に於いて日支兩軍遂に兵火を交ふるに至つた旨八日午前六時四十分北平の我が當局に現地より公報到着した

銃聲曉夢を破る

北平八日發同盟至急報「八日午前五時半頃より事件發生の地、盧溝橋方面より數々たる銃聲北平の曉霧を破つてつたはり、支那軍發砲を開始した模様事件擴大し最悪なる場合に立至るのではないかと憂慮さる北平は異常なる緊張を呈す

北平 八日 發 同盟 至 急 報

# 静岡県民の戦争との関わり

1938(昭和13)年4月、「国家総動員法」が公布された。以後、これに基づき人的・物的資源の統制運用を命ずる勅令が次々に発せられ、国民を総力戦体制の下に組み込んだ。

例えば1939年7月施行の「国民徴用令」は、16～45歳の男子と16～25歳の女子を軍の作業所や指定工場に徴用することを定めた。しかし、戦局の拡大に伴い生産現場から多数の出征兵士を送り出したため労働力が一層不足し、1943(昭和18)年7月の改正「徴用令」では、男子は12～60歳、女子は12～40歳に年齢枠が広げられた。

また、日中開戦以来、「勤労奉仕」という名で行われてきた学校生徒や一般女子の集団労働力提供は、中等学校生徒以上全員の軍需工場動員に発展した。

20～40歳の未婚女子を強制動員した「女子挺身勤労令」も公布され、さらに1945(昭和20)年3月には国民学校初等科(小学校)を除くすべての学校の授業を停止し、学徒を動員させることとした。こうして老若男女を問わず、全国民が「大東亜戦争」完遂のために動員されたのである。

# 愛國婦人会・大日本国防婦人会の活動



大日本国防婦人會 入野村蜷塚支部旗  
【浜松市博物館所蔵資料】

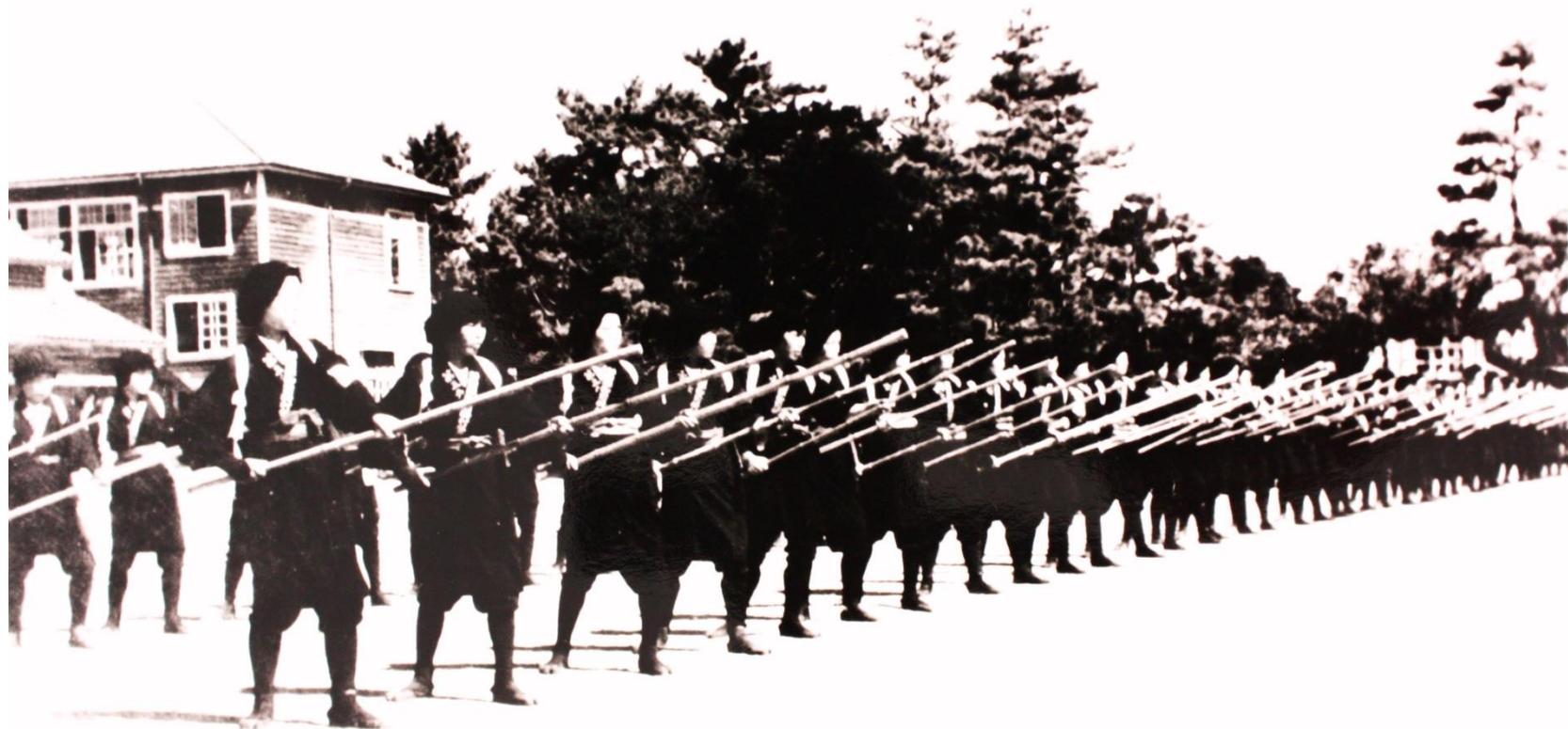


愛國婦人會の襷  
【沼津市明治史料館所蔵資料】

戦勝祈願・静岡浅間神社参拝 【静岡市山梨写真館所蔵資料】



# 御前崎村警防団・女性の竹ヤリ訓練 【御前崎市教育委員会所蔵資料】

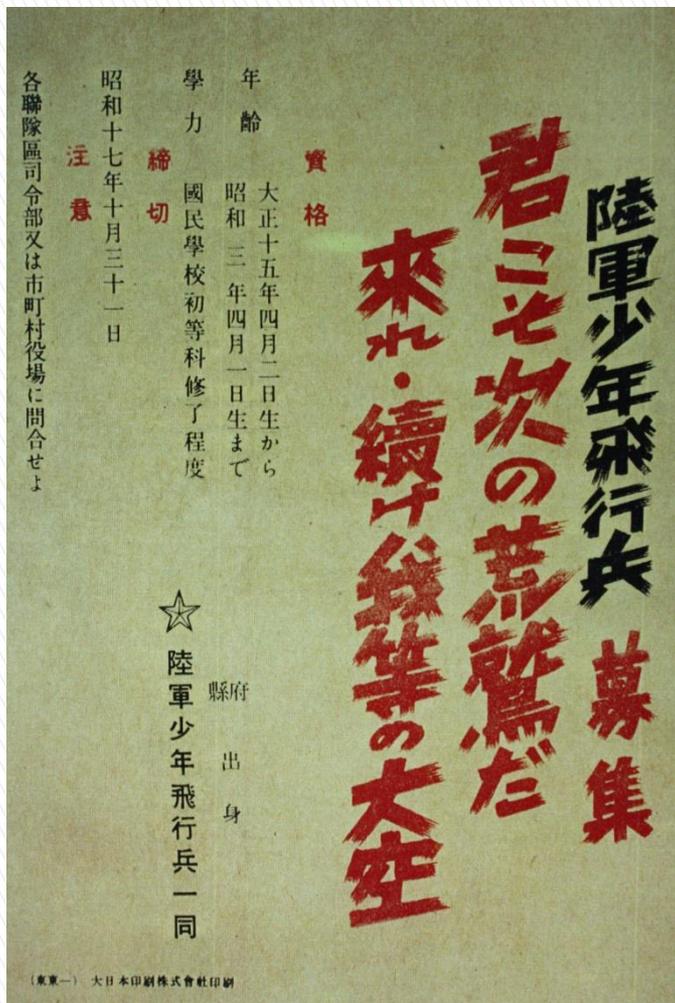


学徒動員（プロペラ生産に従事） 【ヤマハ株式会社所蔵資料】



- ▶ この資料は学校教材専用です。  
ここでは御覧いただけません。

# 学徒出陣



陸軍少年飛行兵募集ポスター  
【浜松市博物館所蔵資料】



旧制静岡高等学校戦没者遺稿集  
「地のさざめごと」【海野氏所蔵資料】

# 戦時下の県民生活

戦争経済は軍需生産を拡充する一方、消費資料の輸入を制限し、配給統制を行ったから、一般家庭の生活必需品は極端に欠乏した。

主食である米について政府は、1939(昭和14)年「米穀配給統制法」、1940年「米穀管理規則」を公布して町村別割り当て供出制を実施するとともに、1941年から米穀配給通帳制を実施した。

配給量は1人1日米2合3勺(約330g)を基準としたが、しだいに麦・大豆・トウモロコシ・サツマイモ・ジャガイモなどが米の代わりに配給された。

人々は飢餓との戦いに苦しみ、山野に食用植物や川魚などを求め歩いた。米の配給制実施と前後して、砂糖・マッチ・食塩・衣料・みそ・しょうゆ等にも配給切符制が施行された。

また、統制経済はインフレ抑止の点から「貯蓄増強」を奨励し、「戦時債権」購入の割当が行われ、それでなくとも実質賃金の低下に悩む庶民生活に打撃を与えた。

モノもカネも統制で固められた人々が、たまりかねて走った違反行為に対しては、非国民の罵声が浴びせられ、「上意下達」機関となった町内会・部落会・隣組の組織が、非協力者を摘発する相互監視の機能を果たした。

# 戦時下の県民生活 1



国民服と巻き脚絆・軍靴など  
【浜松市復興記念館所蔵資料】



防空ずきん・防毒マスク・鉄かぶと  
【浜松市復興記念館所蔵資料】

## 戦時下の県民生活 2



配給所の看板

【沼津市明治史料館提供資料】



戦時債権

【浜松市復興記念館所蔵資料】





# 佐々木古櫻 「戦中画便り・戦中画日記」

佐々木古櫻(ささき こおう) 本名寿太郎・号干城は、土佐派の流れをくむ、武者絵を得意とした日本画家である。京都に生まれ、1920(大正9)年頃沼津に来住、結婚後は千本緑町に住んだ。

現在、沼津市歴史民俗資料館に所蔵されている「戦中画便り」1冊と「戦中画日記」8冊は、古櫻が戦時中に描いた生活日記である。いずれも縦8.9cm、横6.6cmの折り本である。

「戦中画便り」は、1942(昭和17)年2月から3月に描かれ、知人に託していた底本をもとに1945(昭和20)年2月に、その間の3年間の世相の変化を対比させながら新たに制作したものである。

「戦中画日記」は、1944(昭和19)年9月から翌年8月10日敗戦の直前までの記録である。その第1冊の冒頭に「時代を語るものとして、いつの日か思出になるものと、猫の目の様に移り変って行く世の中を、…二千六百有余年の光輝ある祖国を守れと筆を取るのである」と記している。彼も多くの日本人と同じように、皇軍の必勝を信じ、戦争協力を惜しまない皇国民の一人であった。

# 戦中画便り 「全国の物資が配給制度となる」

**全国の物資が配給制度となる**  
 一月分の食糧が  
 配給制度に  
 一月分の食糧が

炭薪  
 配給に  
 自由販賣  
 野菜  
 米成年  
 二合三勺  
 老人子供  
 平均三割  
 土芥子  
 老人子供  
 平均三割

砂糖  
 一斤  
 二月  
 〇・三斤

味噌  
 一日  
 五匁  
 二月  
 百匁

油  
 一人分  
 三月  
 一人分  
 三月

酒  
 一人分  
 四月

炭薪  
 四月  
 五合

砂糖は  
 全配給  
 中止  
 味噌味噌油  
 塩等の配給  
 約三月  
 配給は  
 米は割減  
 野菜配給  
 土芥子  
 老人子供  
 平均三割  
 八月

昨年より野菜の量は  
 配給に  
 三三回まで到底配給一不五の生活は出来ず

# 戦中画便り 「品不足から物価高となる」

夕食 最高 五割 以下  
 和食  
 洋食  
 料理  
 お酒は 一番以上  
 二割以下  
 三割以上  
 五井  
 糰子  
 雑汁  
 旅は空腹を感ずる  
 赤方成り年が牙丸  
 旅は空腹を感ずる  
 赤方成り年が牙丸  
 旅は空腹を感ずる  
 赤方成り年が牙丸

午後五時から八時までは営業中  
 午後七時から九時は休業中  
 知事官にお願い

高の料金と取られ上  
 倍率ハ割が付く  
 倍格の料金に付て  
 二割は買えぬが  
 毎日の様に営業中  
 営業中用配給が全  
 制限し取付て  
 知事官にお願い

市の中の家を満した  
 市の中の家を満した  
 市の中の家を満した  
 市の中の家を満した



戦中画便り 「配給なし、物価は闇取引値段に急騰する」









# 戦中画日記 3 「若人、学徒らの出征」



# 研究の手引き(参考資料)

- ▶ 『静岡県史』通史編6 近現代二  
「第1編 満州事変期の地域社会と経済発展」  
「第2編 翼賛政治と戦時統制」
- ▶ 『図説 静岡県史』第5章 近代  
21 総動員—県民の戦争協力  
22 戦時下の県民生活
- ▶ 『佐々木古櫻 戦中絵日記』 沼津市叢書二  
沼津市史編集委員会編集
- ▶ 「柳条湖事件を伝える記事」 『静岡民報』 静岡県立中央図書館
- ▶ 「盧溝橋事件を伝える記事」 『静岡民友新聞』 静岡県立中央図書館
- ▶ 「大日本国防婦人会の支部旗」 浜松市博物館
- ▶ 「愛国婦人会の襷」 沼津市明治史料館

# 研究の手引き(参考資料)

- ▶ 「戦勝祈願・静岡浅間神社参拝」 静岡市 山梨写真館
- ▶ 「女性の竹やり訓練」 御前崎市教育委員会
- ▶ 「学徒動員」 ヤマハ株式会社
- ▶ 「静高生の学徒出陣」 静岡大学人文社会学部  
旧制静岡高等学校資料室
- ▶ 「陸軍少年飛行兵募集ポスター」 浜松市復興記念館
- ▶ 「地のさざめごと」 海野氏
- ▶ 「国民服と巻き脚絆・軍靴など」 浜松市復興記念館
- ▶ 「防空ずきん・防毒マスク・鉄かぶと」 浜松市復興記念館
- ▶ 「配給所の看板」 沼津市明治史料館
- ▶ 「戦時債権」 浜松市復興記念館
- ▶ 「衣料切符」 浜松市復興記念館
- ▶ 『浜松大空襲 戦争はいらない』 元城校十九年会編集委員会